http://decfamily.p1.bindsite.jp/2013NEW/

We 25R

No.241　03/07/17

授業のしがいのあるクラス

昨日の午後、ちょうど君たちが総合のレポートで出かけているころ、２学年の拡大進路部会という会議が開かれた。２学年の授業を担当されている先生方に集まっていただいて、一クラスずつ、授業の様子や気になる生徒（イイ意味でも悪い意味でも…）を具体的に挙げていただきながら、今後の指導に役立てようという会議である。各教科担当の先生方は、ご自分の担当している科目の成績状況しかご存じないだろうから、その会議の場では、各クラス全員の前期中間考査の結果までお知らせしている。よって、以後の授業では、先生方は君たちの成績を全部ご存じである。いくらその科目の成績がよくても他の科目が悪ければ、「もっとあの科目もがんばりなさい」というアドバイスをいただくようになるかも知れないし、逆にその先生の担当科目が不得意であっても、「この生徒はあの科目ではがんばっているんだな」ということは分かっていただけたはずである。

＊

みんなも知っての通り、この学年は、今の３年生と比較すると、国数英の模試の成績はどの科目も少しずつ平均点がよい。ただし問題はその内実で、下位層が少ないのはイイのだが、上位層も３年生に比べてちょっと少ないという点が課題となっている。だから、この会議でもがんばっている生徒を多く採り上げていただいて、今後の指導に生かしたいという面があったのだが、時間の関係もあってどうしても話題は悪い面で気になる生徒たちに集中しがちだった。

25Rでは、個人名を挙げて「**遅刻が多い**」「**提出物が出ていない**」「**集中力がかける**」「**よく寝ている**」といった評価をいただいた生徒がいる。それぞれ身に覚えのある者はしっかり反省して改善を目指すこと。クラス全体としては、特に問題を指摘されることはなかったが、「**授業が始まっても準備が出来ていない**」「**チャイムが鳴ってから教材を取りに行く**」といった指摘をいくつか受けたので、これも身に覚えのある諸君は改善すること。

数回書いているように、Liveとしての授業がうまく機能していないクラスは、やはり最終的にイイ結果を残せないのである。「自分だけ頑張ればイイ」というのは大きな間違いで、一日のうちの大部分を占める学校の授業が満足に機能していなければ、どんなに自分で頑張っても、現役生にとって挽回できる余地は少ないのである。

あるクラスに対して、「熱心でない生徒を許容する雰囲気がある」というコメントが寄せられていたが、これが一番いけない。頑張ろうとする生徒の気持ちや、イイ授業をしようと思う先生方の気持ちを摘んでしまうような雰囲気がクラスにあるとしたら、それは全員の課題として改善を目指さなければならないのである。

遅刻や居眠り、準備の遅れを「許容する」のではなく、みんなで楽しい授業を作りながら、自然とそういうことがなくなるような雰囲気が生まれるようにしたい。「25Rの授業は楽しくてやりがいがある！」と先生方から評価されるようになりたいものだ。